学校番号	1208

平成 31 年度　　指導と評価の年間計画

教科	科目（講座名）	単位数	指導学年	履修の条件
数　学	数学Ｂ	２	３	数学Ⅰ履修後

使用教科書	副読本等
教科書「新　高校の数学B」（数研出版）	ポイントノート数学B

準備物・費用等	必修／選択	全員履修	セット	自由選択	授業形態	講義	実技	実習
必要があればその都度連絡します。				○		○		

１．担当者からのメッセージ（学習方法等）

生徒の学力に応じて教科書の内容を精製し、講義と問題演習を反復しながら基礎学力の充実を図る。また、補助プリントなどを適宜作成し、理解を深めるとともに、計算力の向上を目指す。

２．学習の到達目標

主にベクトル、数列について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を目指す。

３．学習評価（評価規準と評価方法）

観点	ａ：関心・意欲・態度	ｂ：数学的な見方や考え方	ｃ：数学的な技能	ｄ：知識・理解
観点の趣旨	数学の論理や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	数学における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	授業に対する態度や提出物の状況によって評価する。	提出物に関して、毎回の授業で集めチェックしている。	定期考査を通し判断する。また授業に復習の計算を入れることでも評価する。	毎回の授業で集める提出物 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４．学習の活動

月	単元（題材）	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
4月 ～ 5月 中旬	平面上のベクトル	ベクトルの意味 ベクトルの加法・減法 ベクトルの成分	○ ○		 ○ ○	○ ○ ○	a,ベクトルについて興味を持ち、意欲的に探求しようとする。 b,ベクトルの加法、減法および実数倍について理解し演算できる。 c,平面上のベクトルが２つの実数の組として表されることを理解している。 d,平面上のベクトルの概念を理解し、ベクトルに関する基本的な用語、記号を理解する	定期考査 提出物 授業態度 出席状況
5月 下旬 ～ 7月	ベクトルの応用	ベクトルの内積 位置ベクトル ベクトル方程式	○ ○ ○	○	 ○	 ○ ○	a,ベクトルについて興味を持ち、意欲的に探求しようとする。 b,ベクトルの内積について理解し、その基本性質を理解する。 c,位置ベクトルを理解し、平面上の点の位置を表現できるよさを認識する。 d,平面上の直線や円を、ベクトルを用いて表せることを理解する。	定期考査 提出物 授業態度 出席状況
8月 下旬 ～ 10月 上旬	空間におけるベクトル	空間座標 空間におけるベクトル 位置ベクトルと空間の図形	○ ○	 ○	○ ○ ○	○ ○ ○	a,三次元のベクトルについて興味を持ち、意欲的に探求しようとする。 b,空間における座標を定め、空間の３つの実数の組として表現できる。 c,空間のベクトルについて内積を定義し、空間内のいろいろな図形の性質を考察できる。 d,平面と同様に、空間においても位置ベクトルを考えることを理解し求めることができる。	定期考査 提出物 授業態度 出席状況
10月 中旬 ～ 12月	数列	数列 等差数列 等比数列	○ ○ ○	 ○	 ○	 ○ ○	a,数列の概念および数列についての基本的な用語を理解する。 b,等差数列において関心をもち、一般項を初項、公差を使い表すことができる c,等比数列において関心をもち、一般項を初項、公比を使い表すことができる d,等差、等比数列ともに第n項までをnを用い表すことができる。	定期考査 提出物 授業態度 出席状況
1月 ～ 2月	漸化式と数学的帰納法	いろいろな数列 漸化式 数学的帰納法	○ ○ ○	○	 ○ ○	 ○ ○	a,数列の概念および数列についての基本的な用語を理解する。 b,階差数列から一般項を求めたり、数列の和から一般項を求めることが出来る。 c,数列の帰納的定義について理解し、漸化式を用いて表された数列の一般項を求めることが出来る。 d,数学的帰納法について理解し、等式などの証明に利用できる。	定期考査 提出物 授業態度 出席状況